



2022
JANUARY 19
14:00-17:30

International Recovery Forum 2022

国際復興フォーラム2022

オンライン生配信
及び
神戸国際会議場



復興を通じたレジリエンス構築のためのシステムの再設計： 仙台防災枠組の中間点における進捗状況と残された課題の評価

Redesigning Systems for Resilience through Recovery:

Assessing Progress and the Unfinished Agenda at the Midpoint of the Sendai Framework



パネルディスカッション1: 仙台防災枠組実施に向けた
Build Back Better(より良い復興)における過去6年間の進捗状況と課題の評価

パネルディスカッション2: 復興を通じたレジリエンス構築のためのシステムの再設計：
2030年に向けてBuild Back Better(より良い復興)をより進めるためのアジェンダ設定



ORGANIZERS:

国際復興支援プラットフォーム (IRP)、内閣府、兵庫県、
アジア防災センター (ADRC)、国連防災機関 (UNDRR)



SUPPORTED BY:

外務省
NHK神戸放送局

参加申し込み方法は、こちらの2次元バーコードを
読み込むか、以下のリンクにアクセスし、
登録フォームにご記入ください。

申し込み先ウェブサイト: <https://bit.ly/31R7ILK>



IRP Steering Committee Members



開会



IRP 運営委員会議長（国連開発計画）
ロナルド・ジャクソン

Mr. Ronald JACKSON
Chair, IRP Steering Committee,
Head of the Disaster Risk Reduction and
Recovery for Building Resilience Team,
United Nations Development Programme
(UNDP)

ロナルド・ジャクソン氏は、国連開発計画（UNDP）危機対応局・防災・復興・レジリエンス強化チームのヘッド。カリブ海地域において 20 年以上にわたり防災分野で活躍。UNDP 以前は、カリブ災害緊急管理機関（CDEMA）の事務局長、ジャマイカ災害準備・緊急管理局（ODPEM）の局長代理、副局長を務めた。第 3 版カリブ海包括的防災戦略（2014-2024）の策定においてリーダーシップを発揮し、数多くの地域及び国内でのサイクロン、豪雨、その他の災害対応を主導した。また、西インド諸島大学で防災の講師を務めた経験を有する。ジャマイカ工科大学学士（物的計画・環境資源開発学）。西インド諸島大学修士（自然資源管理・環境資源管理学）。修士プログラム履修（モニタリング評価報告）。

主催者挨拶



兵庫県知事
齋藤 元彦

Mr. SAITO Motohiko
Governor, Hyogo Prefecture

齋藤元彦氏は兵庫県知事。2021 年 8 月より現職。知事就任前は 2018 年から 2021 年まで大阪府財務部財政課長を務めた。それ以前は総務省自治税務局都道府県県税課理事官を務め、また 2013 年から 2016 年まで宮城県庁に勤務し、宮城県総務部市町村課長、2014 年から 2016 年までは宮城県財政課長を務めた。また、2011 年の東日本大震災後には、福島県飯館村政府現地対策室で勤務。2008 年から 2011 年には、新潟県佐渡市で勤務し、佐渡市総合政策監も務めた。



内閣府大臣官房審議官（防災担当）
内田 欽也

Mr. UCHIDA Yoshinari
Deputy Director General for Disaster
Management,
Cabinet Office, Government of Japan

1990 年東京大学法学部卒業後、建設省（現国土交通省）入省。小田原市都市部長、人事院人材局交流派遣専門員、宮崎県副知事、国土交通省道路局総務課長等を経て、2020 年 7 月より現職。

特別ビデオメッセージ



国連事務総長特別代表（防災担当）
兼 国連防災機関長
水鳥 真美

Ms. Mami MIZUTORI
Special Representative of the United Nations
Secretary-General (SRSG) for Disaster Risk
Reduction, and Head of the United Nations
Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR)

水鳥真美氏は、国連事務総長特別代表として、国連防災機関（UNDRR）のトップも務め、防災、気候変動、持続可能な開発アジェンダの間の戦略・実務面での一貫性、および国連事務総長の予防アジェンダ、人道アクションとの関連性を確保する責務を担う。2018 年 3 月より現職。それ以前は、外務省で大臣官房会計課長、在英国日本大使館公使・広報文化センター所長、総合外交政策局安全保障政策課長、総合外交政策局国連政策課長、北米局日米地位協定室長などの要職を歴任後、英国イースト・アングリア大学付属セインズベリー日本芸術研究所統括役所長を務めた。一橋大学法学部卒、スペイン外交官学校で国際関係ディプロマ取得。

基調講演 1



国際協力機構 防災分野特別顧問
竹谷 公男

Mr. TAKEYA Kimio
Distinguished Technical Advisor on Disaster
Risk Reduction,
Japan International Cooperation Agency
(JICA)

竹谷公男氏は防災及び災害復興分野政策アドバイザーとして世界的に活躍している。竹谷氏は例えば 2004 年のスマトラ津波災害、2006 年のジャワ島中部地震、2009 年のフィリピン台風オンドイによる洪水、2010 年のパキスタンインダス川の大洪水、2013 年のフィリピン台風オンドイによる高潮被害、2015 年のネパール大地震など、殆どの世界の大地震の被災国政府高官との政策対話や復興支援を行って来ている。

特にドナーが連携して行う災害後復興ニーズアセスメントでは 2009 年の台風オンドイの時から竹谷氏が強く Build Back Better（より良い復興）の概念を主張し、それ以降のアセスメント報告書にはその項目が採用されている。

竹谷氏は 2015 年に第 3 回国連防災世界会議で採択された仙台防災枠組の策定プロセスにおける日本政府交渉団の主交渉団員であり、Build Back Better を世界標準にしたほか、仙台防災枠組の策定プロセスにおいて、多くの部分の交渉をリードした。また同枠組の指標策定にも貢献した。

現在は国際協力機構の防災分野特別顧問として JICA の防災支援全般を指導し、日本政府の仙台防災協力イニシアティブ 1、2 をリードしている。



国連防災機関 (UNDRR) 駐日事務所 代表
松岡 由季

Ms. Yuki MATSUOKA

Head,
United Nations Office for Disaster Risk
Reduction (UNDRR) Office in Japan

松岡由季氏は、在ジュネーブ国際機関日本政府代表部（外務省）勤務などを経て、2004年に国連防災機関（UNDRR）入職。UNDRR本部（在ジュネーブ）にて第二回国連防災世界会議、及び「兵庫行動枠組」策定に関するプロセスに従事。2005年4月よりUNDRR本部にて事務局長特別補佐官を務め、2009年より現職。「仙台防災枠組 2015-2030」を採択した第三回国連防災世界会議に係るプロセスに中心的に携わった。日本を含む世界中のステークホルダーと連携して国際的防災指針である「仙台防災枠組 2015-2030」の実施推進に取り組んでいる。地球環境学博士。

**パネルセッション1：仙台防災枠組実施に向けた
Build Back Better(より良い復興)における
過去6年間の進捗状況と課題の評価**



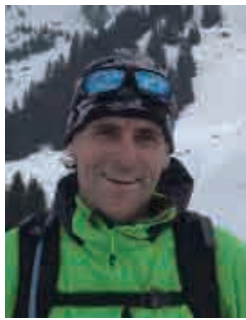
カリブ災害緊急管理機関 (CDEMA)
事務局長
エリザベス・ライリー

Ms. Elizabeth RILEY

Executive Director,
The Caribbean Disaster Emergency
Management Agency (CDEMA)

エリザベス・ライリー氏は、カリブ災害緊急管理機関（CDEMA）事務局長。国際・地域レベルでの防災分野で20年以上の経験を有する。CDEMAでは、2004年のハリケーン・アイバンや2010年のハイチ地震など、数多くの地域レベルでの災害対応の調整を主導した。また、2017年のハリケーン・イルマと2019年のハリケーン・ドリアン後、CDEMA派遣チームを率いた経験がある。現在、カリブ地域のCOVID-19パンデミック対策の調整を主導。

プレゼンテーション



国連防災機関 (UNDRR)
仙台防災枠組中間レビュー・シニアコーディネーター

マーク・ゴードン

Mr. Marc GORDON

Senior Coordinator of the Midterm Review
of the Sendai Framework,
United Nations Office for Disaster Risk
Reduction (UNDRR)

マーク・ゴードン氏は、国連防災機関（UNDRR）仙台防災枠組中間レビュー・シニアコーディネーター。現職の前は、UNDRRのグローバルリスク分析・報告ユニット長を務めた。UNDRRでは、2012年から2017年まで「仙台防災枠組 2015-2030」モニタリングユニット長、2006年から2012年までドナー・ビジネス連携ユニット長を務めた。その前には、バンコクで欧州委員会防災能力向上支援施策計画（DIPECHO）の東南アジア担当マネージャーを務め、また、1997年から2003年まで国連や国際非政府組織においてディレクターや緊急事態オフィサーなど様々な立場で、紛争、複雑な緊急事態、政治的・長期的な危機の対応に携わった。カンボジア、コンゴ民主共和国、コートジボワール、ギニア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、シエラレオネ、スリランカ、東ティモール、ベトナムなど数々の国におけるフィールドワークの経験を有する。



ネパール政府 国家防災管理庁 長官
アニール・ポカレル

Mr. Anil POKHREL

Chief Executive,
National Disaster Risk Reduction and
Management Authority,
Government of Nepal

アニール・ポカレル氏はネパールの国家防災庁の初代長官。同庁の組織構造策定、標準作業手順書の作成、事業プログラムと予算の策定を担当。また、大災害時にはネパール政府の緊急オペレーションセンターの指揮官として務め、災害リスク削減・管理投資の管理を担当する。また、国家防災会議の次官及び国家執行委員会の次官も務める。現職の前は、海外開発研究所のリサーチ・アソシエイトとして、ネパール政府の「国家防災戦略実施計画 2018-2030」および災害リスク削減管理国家政策（2017）の起草に携わる。その前には、世界銀行・防災グローバル・ファシリティ、アジア開発銀行、ISET-Internationalにおいて南アジア、東アジア、中央アジア、西アジア地域の災害リスク削減・管理、気候変動に関する多数のプロジェクトを技術面からサポートした経験を有する。



太平洋共同体 (SPC)
リスク削減・チームリーダー
リテア・ビウコト

Ms. Litea BIUKOTO
Team Leader,
Risk Reduction,
The Pacific Community (SPC)

リテア・ビウコト氏は、太平洋共同体 (SPC) 地球理学・エネルギー・海上課のコミュニティ災害リスク削減プログラムのチームリーダー。その前には、SPC のレジリエンスプログラムのマネージャー及びリスク削減のシニアアドバイザーを務めた。太平洋災害リスク情報システムの開発につながった太平洋自然災害リスク保険の初期段階の遂行に貢献した。また、地域におけるリスク評価の主要技術専門家として、気候変動枠組条約 (UNFCCC) の損失と損害のためのワルシャワ国際メカニズムの執行委員会に報告する包括的リスク管理に関する技術専門グループのメンバーでもある。オタゴ大学で学位、南太平洋大学で海洋科学の修士号を取得。



ジンバブエ政府 地方行政・公共事業・
住宅省 市民保護局 局長
ネイサン・ンコモ

Mr. Nathan NKOMO
Acting Chief Director
Department of Civil Protection,
Ministry of Local Government, Public Works
and National Housing,
Government of Zimbabwe

ネイサン・ンコモ氏は、地方行政・公共事業・住宅省の市民保護局 (DCP) の局長として、ジンバブエの防災活動の調整・企画を担当。

ジンバブエの防災力の強化に向けたパートナーシップの推進に従事し、防災センターの設立に携わる。

市民保護委員会の会長として、防災準備・計画・リスク削減及び災害対応の調整を主導。また、ジンバブエにおける災害対応を実行する責任を担う。

そのため、DCP は、アフリカ開発銀行と世界銀行から 1 億米ドルの資金提供を受けたサイクロン・イダイ及び COVID-19 の災害対応プログラムでジンバブエ国連プロジェクト機関 (UNOPS) と連携している。

ジンバブエ代表として、防災グローバルプラットフォームや南部アフリカ開発共同体 (SADC) などの国際フォーラムに参加し、ジンバブエの防災に関する課題を明確にした。ジンバブエのチノイ工科大学で戦略マネジメントの修士号を取得。

モデレーター



アフリカ・カリブ海・太平洋諸国機構
(OACPS) 次長 (環境・気候行動担当)
クリステル・プラット

Ms. Cristelle PRATT
Assistant Secretary-General,
Environment and Climate Action
Organization of African, Caribbean and
Pacific States (OACPS)

クリステル・プラット氏は、79 か国が加盟するアフリカ・カリブ海・太平洋諸国機構の環境・気候行動担当次長。様々な環境において 30 年に及ぶ政策実践経験を有する。それ以前は、太平洋諸国フォーラム (PIF) の事務次長を務めた。

様々な国際・地域機関において気候変動、リスク・レジリエンス、海洋ガバナンス分野のコンサルティングを行った経験を有する。また、2004 年から 2010 年まで、現在は太平洋共同体 (SPC) の一部局である太平洋島嶼国応用地球科学委員会 (SOPAC) の委員長を務めた。

基調講演2



アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁 (FEMA)
副長官 (政策・プログラム分析担当)
シンシア・スピシャー

Ms. Cynthia SPISHAK
Associate Administrator,
Office of Policy and Program Analysis,
Federal Emergency Management Agency
(FEMA),
Government of the United States of America

シンシア・スピシャー氏は、アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁 (FEMA) の政策・プログラム分析担当の副長官として、FEMA の戦略・資源計画、データ分析、政策、監査、国際業務の各機能を主導。現職の前は、連邦保険局の副長官補として全米洪水保険制度の運営を支援。2017 年 11 月に連邦保険局にて保険取得・技術支援部門の課長として就任。連邦保険局の資金の計画・プログラミング・予算編成を主導、契約の監督、プログラムマネジメント室の立ち上げ、レガシー情報技術 (IT) システムの維持、及び連邦保険・被害軽減庁の IT モダナイゼーション (Pivot) の実行に携わった。2005 年のハリケーン・カトリーナ直後、IT サプライチェーンコンサルタントとして FEMA に入庁。その後、災害復興、最高情報責任者室、最高人材責任者室、ミッションサポートなど FEMA にて様々な役職を務め、またいくつかの災害支援に派遣された。

パネルセッション2:復興を通じたレジリエンス構築のためのシステムの再設計:2030年に向けてBuild Back Better (より良い復興)をより進めるためのアジェンダ設定



アジア開発銀行 (ADB)
東南アジア地域担当局長
ラメッシュ・サブラマニウム

Mr. Ramesh SUBRAMANIAM
Director General,
Southeast Asia Department,
Asian Development Bank (ADB)

ラメッシュ・サブラマニウム氏は、アジア開発銀行 (ADB) 東南アジア地域担当局長。1997年4月よりADBに勤務。現職の前は、地域経済統合室 (OREI) の室長を務めた。OREIでは、ADBの4つの協力の柱 (貿易・投資、通貨・金融、インフラ、及び地域公共財) からなる「地域協力・統合戦略」を担当する4組のチームを統率。ADB以外では、真実、平和、正しい行い、非暴力、愛といった基本的だが重要な人間の価値観を教育に注ぎ込む約170人の子供たちが通う学校でボランティア・コーディネーターの活動をしている。



フィリピン政府 公共事業道路省
プロジェクト・インパクト分析・評価部長
ジェリー・ファーノ

Mr. Jerry FANO
Head,
Project Impact Analysis and Evaluation,
Department of Public Works and Highways,
Government of the Philippines

ジェリー・ファーノ氏は、現在公共事業道路省・統合プロジェクトマネジメント室の洪水制御クラスター部にて勤務。水工学・河川工学及び洪水・浸食制御分野で18年以上の経験を有する。2010年、つくば市において国際協力機構 (JICA) 研究員としてJICAと水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) が実施している修士課程「防災政策プログラム 水災害リスクマネジメントコース」を修了。



南部アフリカ開発共同体 (SADC)
防災ユニット シニア・プログラム・オフィサー
ステムビソ・ギナ

Ms. Sithembiso GINA
Senior Programme Officer,
Disaster Risk Reduction Unit,
Southern African Development Community
(SADC)

ステムビソ・ギナ氏は、南部アフリカ開発共同体 (SADC) 防災ユニットのシニア・プログラム・オフィサーとして、防災管理及び国際・大陸・地域協力の推進を担当。持続可能な開発の経歴を持ち、講師としてキャリアを初めた後、環境・開発マネジメントのコンサルタントとして活躍。国内外の非国家主体による災害リスク軽減・環境・気候変動管理及び持続可能な貧困削減を促進する活動に従事。国連機関では14年間、環境社会経済学と地域開発に関する政策サービスに従事。国際・地域・国内レベルで、女性や若者を対象としたプログラムや革新的なパートナーシップに従事し、制度的・人的影響を与え、ナレッジマネジメントと協力のための対話や円卓会議を促進して地域社会に影響を与えるとともに意思決定を行っている。



ポルトガル政府 リスク削減・管理室 室長
ジョゼ・オリヴェイラ

Mr. José OLIVEIRA
National Director,
National Directorate for Risk Prevention
and Management,
Government of Portugal

ジョゼ・オリヴェイラ氏は緊急・市民保護局 (ANEPC) リスク削減・管理室室長を務める。ポルトガルの緊急市民保護計画のガイドライン策定、災害・技術関連リスクと脆弱性の評価の推進、国家リスクモニタリング・コミュニケーションシステムの構築、建物の火災安全の分野での規制と検査の遵守等を担当。2001年から2007年には、旧国家消防・国民保護局の情報通信部門を主導。また、2007年に国家市民保護局 (ANPC) の技術リソース課長、2009年にはANPCにて緊急計画のディレクターを務めた。

モデレーター



国連防災機関 (UNDRR) 政府間プロセス、
機関間協力及びパートナーシップ部長
パオラ・アルブリート

Ms. Paola ALBRITO
Chief of Branch,
Intergovernmental Processes, Interagency
Cooperation and Partnership,
United Nations Office for Disaster Risk
Reduction (UNDRR)

パオラ・アルブリート氏は、国連防災機関 (UNDRR) ジュネーブ本部にて、防災に取り組む政府間のプロセスを支援し、仙台防災枠組の実施を支援するための機関間の調整、リスク情報に基づく投資と行動に向けたパートナーシップを推進している。その前には、UNDRRの欧州・中央アジア地域事務所長及び欧州の諸機関に対するUNDRRの代表も務めた。2004年にUNDRRに入職。UNDRRの前には、国連常駐調整官事務所、国連システム・スタッフ・カレッジ、国際労働機関などでの業務に従事。イタリア・トリノ大学で国際関係および政治学の修士号を取得。

総括

国連防災機関（UNDRR）政府間プロセス、
機関間協力及びパートナーシップ部長
パオラ・アルブリート

Ms. Paola ALBRITO

Chief of Branch,
Intergovernmental Processes, Interagency
Cooperation and Partnership,
United Nations Office for Disaster Risk
Reduction (UNDRR)

閉会挨拶



IRP 運営委員会共同議長（内閣府）

村上 威夫

Mr. MURAKAMI Takeo

Co-Chair of the IRP Steering Committee
Director, Cabinet Office, Government of
Japan

広島県出身。国土庁（現国土交通省）入庁後、土地・不動産政策、地域開発・振興政策、インフラ関係政策などに関わる。防災関係では、2007年から2012年にかけて、国連勤務（UNOCHA 及び現 UNDRR）、内閣府（防災担当）参事官補佐、防災担当大臣秘書官を経験。2021年8月より現職。



BACKGROUND:

仙台防災枠組2015-2030が中間点を迎えるにあたり、国連総会では中間レビューの実施が決定され、中間レビューにおいて枠組の主要項目の一つである「Build Back Better(より良い復興)」に向けた進捗状況を評価することが言及されました。世界規模のCOVID-19パンデミック、気候変動、そして持続可能な開発目標達成状況の後退は、現在までのBuild Back Better(より良い復興)における進捗状況と課題を評価し、仙台防災枠組の優先行動4の実施を進捗させるために必要な調整とアクションの検討を行う必要性を強調しています。

国際復興フォーラム2022では、仙台防災枠組の優先行動4の実施状況を振り返り、残された課題を議論するとともに、継続的な進展に向けた前向きなアジェンダ設定を目指します。また、このフォーラムでは、地域コミュニティがより早く、より公平に、より強靱な復興が可能となるよう、「Build Back Better(より良い復興)」を進捗させるための重点的なテーマについて、政策立案者や専門家がこれまでの振り返りとともに、将来を見据えた議論を行います。

国際復興フォーラム2022は、これらの目的のために2つのパネルディスカッションを行います。

1. 仙台防災枠組実施に向けたBuild Back Better(より良い復興)における過去6年間の進捗状況と課題の評価

パネルディスカッション1では、「Build Back Better(より良い復興)」を実現する上での進捗状況、成果、成功要因、課題を評価し、それらが災害復興における政策、ガバナンス、プログラム、及び成果の改善にどのように貢献してきたかについて議論します。

2. 復興を通じたレジリエンス構築のためのシステムの再設計:2030年に向けてBuild Back Better(より良い復興)をより進めるためのアジェンダ設定

パネルディスカッション2では、複数のハザードやシステム・リスク(連鎖的に存在する多様なリスク)が存在する中で、「Build Back Better(より良い復興)」を進捗させるための優先事項や選択肢を議論し、災害復興において変革を起こしレジリエンスを高める優良事例を特定します。



AGENDA:

開会

| | |
|---------------|---|
| 14:00 - 14:20 | 開会挨拶 ロナルド・ジャクソン IRP運営委員会議長 国連開発計画(UNDP) 危機対応局 防災・復興・レジリエンス強化チーム ヘッド 主催者挨拶 齋藤 元彦 兵庫県知事 内田 欽也 内閣府 大臣官房審議官(防災担当) 水鳥 真美 (特別ビデオメッセージ) 国連事務総長特別代表(防災担当)兼 国連防災機関長 |
|---------------|---|

基調講演1

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 14:20 - 14:40 | 竹谷 公男 国際協力機構(JICA) 防災分野特別顧問 |
|---------------|---------------------------------------|

プレゼンテーション

| | |
|---------------|--|
| 14:40 - 14:50 | マーク・ゴードン 国連防災機関(UNDRR) 仙台防災枠組中間レビュー・シニアコーディネーター |
|---------------|--|

パネルディスカッション1:仙台防災枠組実施に向けたBuild Back Better(より良い復興)における過去6年間の進捗状況と課題の評価

| | |
|---------------|---|
| 14:50 - 15:55 | モデレーター: クリステル・プラット アフリカ・カリブ海・太平洋諸国機構(OACPS) 次長(環境・気候行動担当) パネリスト: 1. エリザベス・ライリー カリブ災害緊急管理機関(CDEMA) 事務局長 2. アニール・ポカレル ネパール政府 国家防災管理庁 長官 3. リテア・ピウコト 太平洋共同体(SPC) リスク削減チームリーダー 4. ネイサン・ンコモ ジンバブエ政府 地方行政・公共事業・住宅省 市民保護局 局長 |
|---------------|---|

基調講演2

| | |
|---------------|---|
| 16:05 - 16:25 | シンシア・スピシャー アメリカ合衆国 連邦緊急事態管理庁(FEMA) 副長官(政策・プログラム分析担当) |
|---------------|---|

パネルディスカッション2:復興を通じたレジリエンス構築のためのシステムの再設計:2030年に向けてBuild Back Better(より良い復興)をより進めるためのアジェンダ設定

| | |
|-------------|--|
| 16:25-17:20 | モデレーター: パオラ・アルブリー 国連防災機関(UNDRR) 政府間プロセス、機関間協力及びパートナーシップ部長 パネリスト: 1. ラメッシュ・サブラマニヤム アジア開発銀行(ADB) 東南アジア地域担当局長 2. ジェリー・ファーノ フィリピン政府 公共事業道路省 プロジェクト・インパクト分析・評価部長 3. ステムビン・ギナ 南部アフリカ開発共同体(SADC) 防災ユニット シニア・プログラム・オフィサー 4. ジョゼ・オリヴェイラ ポルトガル政府 リスク削減・管理室 室長 |
|-------------|--|

総括・閉会

| | |
|-------------|--|
| 17:20-17:30 | パオラ・アルブリー 国連防災機関(UNDRR) 政府間プロセス、機関間協力及びパートナーシップ部長 村上 威夫 IRP運営委員会共同議長 内閣府 政策統括官(防災担当)付参事官(普及啓発・連携担当) |
|-------------|--|

* 予定

使用言語:
日本語・英語(日英同時通訳有り)



ひょうご安全の日推進事業



REGISTRATION:

参加申し込み方法は、こちらの2次元バーコードを読み込むか、リンク先よりアクセスし、登録フォームにご記入ください: <https://bit.ly/31R7ILK>

国際復興フォーラムについてのご質問は、メールまたはお電話にてお問い合わせください。

お問い合わせ先メールアドレス: irpforum@recoveryplatform.org

IRP事務局電話番号: 078-262-6041

